

平成18年版

# 科学技術白書

未来社会に向けた挑戦

— 少子高齢社会における科学技術の役割 —

文部科学省

## 表紙解説

観察は物事の本質をとらえる科学の原点である。万能の天才レオナルド・ダ・ヴィンチと江戸時代の画家伊藤若冲はともに類まれなる観察眼を備えた芸術家である。彼らの精緻で、しかも躍動的で生き活きた表現は時代を超えて現代に生きる我々をも魅了する。本年の科学技術白書の表紙は、彼らの作品と、現代のサイエンティフィック・イラストレーションを融合し、少子高齢化に対応した活力ある豊かな未来社会を切り拓いていく科学技術の創造的な試みを、西洋と東洋、過去と現在、人間・知性と自然、そしてサイエンスとアートの融合として表現している。

表紙デザイン・イラストレーション：木村政司

レオナルド・ダ・ヴィンチ 1452–1519

イタリア、ルネサンス期の画家、彫刻家、建築家、科学者。画家として最も有名であるが、芸術と科学を一体のものとして、総合的な自然探求を進めた。彼の残した1万ページに達する手稿のうち、絵画に関するものは4分の1ほどで、残りは科学、技術や自然研究に関するものである。彼の科学的思想の特質は、技術と結びつく実証的な性格を持っていることで、このことは解剖学の研究や植物の素描に最もよく現れている。

伊藤若冲 1716–1800

江戸時代中期の京都画壇を代表する画家の一人。濃彩の花鳥画と水墨画に異色の画風を作り上げた。身の回りの動・植物を題材にした作品が多い。若冲の作品の特色は、対象の形態と緻密な細部描写を主観性の強い画面に再構成し、独自の空間表現と装飾効果を生み出している点にある。

木村政司 1955–

現在、日本大学芸術学部教授。米国スミソニアン協会国立自然人類歴史博物館にて、昆虫学のサイエンティフィック・イラストレーションを習得。ナショナル・ジオ・グラフィック社にて契約イラストレーターを経験、帰国後グラフィックデザイン会社を設立、大学での主な研究課題は、サイエンスコミュニケーション論とサイエンスコミュニケーション実習の授業を核にしたサイエンスとアートの融合教育とミュージアム研究。